

Vol 3

難民も私たちと
同じ

Refugee is

Special Issue

普段着の難民支援

Einstein was
a refugee



UNHCR
The UN Refugee Agency

UNHCR マガジン
2007年11月
国連難民高等弁務官事務所

Contents

Special Issue

普段着の 難民支援

はじめに

3 Refugee is... Vol.3

**「普段着」を着て、
難民支援をしてみませんか？**

UNHCR駐日代表 滝澤三郎

**UNHCRとユースTシャツと
わたし**

Food 食

4 株式会社 ABC Cooking Studio

**ABCクッキングスタジオの冒険
難民の美味しい笑顔を夢見て**

5 ケニア・カクマ難民キャンプ

**「2100カロリー」と「17円」の
食事**

カクマ難民キャンプにおける食事



株式会社 日田天頌水

難民キャンプの井戸120本

株式会社 ジェーシービー

社員食堂で2400食

Sports スポーツ

6 東京ヴェルディ 1969

チャリティーサッカー

サッカーしかできなくても難民支援

「世界難民の日」フットサル大会実行委員会

難民フットサル大会

One Ball, No Border

7 NPO法人 バレーボール・モンテリオール会

**ネパール・バレーボール・
ミッション**

最後はボール、自分で拾いました

三菱グループ、関西テレビ放送株式会社、
SRIスポーツ株式会社

三菱ダイヤモンドカップゴルフ

Youth ユース

8 UNHCRユース

Refugee is...ジャック!

UNHCRユースがやってくる

Fashion ファッション

10 株式会社 ユニクロ

**あっ、私と同じフリース着ている
ユニクロの全商品リサイクル活動を通じた普段着の難民支援**

11 UNHCR駐日事務所スペシャルサポーター・女優

菊川怜さん

女優、菊川怜の折り

遠く見えるけれども、
じつはずごく近いこと



ザニーさんの挑戦

P.S. I am a Refugee

Film 映画

12 第2回「難民映画祭」開催

駐日ルワンダ共和国特命全権大使
エミール・ルワマシラボ閣下
「難民映画祭」に寄せて

エイバックス・マーケティング株式会社

飯島真さん

映画が拓く可能性

岩波ホール支配人

岩波律子さん

映画が伝える世界の状況

日本UNHCR協会評議員・俳優

滝田栄さん

映画を通じて考える

**世界の難民について
よくわかる映画の紹介**

Music 音楽

14 朝日チャリティーコンサート・ じゃがいもの会

極上のチャリティーコンサート

Gilnz (ギンズ)

ライブ・アンド・トーク

国会議員が楽器を持てば...!?

Book 本

15 日本UNHCR協会ボランティア・ 絵本プロジェクトチーム

「ほんのすこしの勇気から」

難民のオレアちゃんが
おしえてくれたこと

16 作家

森絵都さん

書くことを通じて伝えてゆきたい

ペンと紙の記録

Internet インターネット

17 ヤフー 株式会社

**世界の難民問題を
考えてみませんか？**

Yahoo!ボランティアでコーナー開設

株式会社 カフェグルーヴ

「約束の旅路」

映画が世界を変える
ブログ募金キャンペーン

日本UNHCR協会評議員・バイオリニスト

川井郁子さん

難民キャンプのバイオリニスト

Education 教育

18 関西学院大学・青山学院大学

**難民推薦入学制度：
教育は未来への投資**

関西学院大学が開いた夢の扉
青山学院大学に引き継がれる志

19 難民推薦入試で入学

ミョウさんの決意

日本UNHCR協会

小・中・高校生のための学習訪問

ボランティア

講師の活動



掲載記事の転載をご希望の方は、
UNHCR広報室にご相談ください。

UNHCR (ユニー・エヌ・エイチ・シー・アール/
国連難民機関) 駐日事務所
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-70
UNハウス (国連大学ビル) 6階
TEL 03-3499-2011 (代表)
FAX 03-3499-2272
URL <http://www.unhcr.or.jp>

UNHCRマガジン

「Refugee is...」 Vol. 3 2007年11月

発行人 岸守一

編集 上月光、守屋由紀、
開裕香子、吉波佐希子

制作・デザイン (株)トライ

UNHCRの支援活動は皆様のご寄附に支えられています。ご寄附は日本UNHCR協会を通じてお願いします。日本UNHCR協会はUNHCRの公式支援窓口です。

郵便振替口座
口座番号00140-6-569575
加入者名 日本UNHCR協会



[表紙]
タンザニア
ペナコ難民キャンプの
ルワンダ難民
©UNHCR/T.Bolstad

Refugee is... Vol.3

「普段着」を着て、 難民支援をしてみませんか？

タキシードに紋付はかま或いはイブニング・ドレス。あなたは、年に何回そんなよそ行きの服を着るのでしょうか？ 作業服や長靴を履いて、泥にまみれて作業するなんて、年に何回ありますか？

難民支援と聞いたとき、あなたは何をイメージしますか？ ニューヨークやジュネーブで国際会議が開かれたり、スーダンやアフガニスタンで支援を必要とする人を助けたり？ 確かにそれもUNHCRや難民支援に関わるNGOの仕事です。

ただ、みんながよそ行きのドレスや作業服を着る必要はありません。募金だけが支援の手段ではありません。難民も私たちと同じ。足の速い人もいれば料理のうまい人もいます。相

対性理論で歴史に名を残したアインシュタインもまた、難民でした。だから、料理だって、サッカーだって、音楽だって立派な難民支援の表現になります。普段着を着て、あなたの得意なことを活かして私たちと一緒に、特別じゃないけど独特の難民支援を工夫してみませんか？

そうすることで今まで関係ないと思っていた世界が、あなたにぐっと近づくはずですよ。

そうすることで少しでも笑顔が、世の中に広がるはずですよ(そこにはあなたの笑顔もあるはずですよ)。

あなたの得意なことは、何ですか？

編集部一同

UNHCRと ユースTシャツとわたし

UNHCR駐日事務所の任務は三つあります。第一に、日本にいる難民や庇護申請者の方を守るプロテクション。第二に、日本政府と人道支援に関する政策や資金調達について調整すること。第三に、難民問題を広報し、民間からの支援や寄附を募ることです。

私は立場上、よく大学で講義しますが、学生は驚くほど熱心に難民問題について勉強してくれます。そして学生の大半が女子学生なんですけど、これはなぜか？ 一度じっくり研究してみなければなりませんね。

今般、UNHCR駐日事務所のスタッフたちが、難民支援の新しいあり方についてまとめ



てくれました。見た目は奇抜に見えるものもあるかもしれませんが、その根本にあるのは、難民との「共生」です。難民を助けを求める人と決めつけて支援を考えるのではなく、彼らの潜在力やエネルギーや尊厳に共感して、共に生きる方法を探っています。

今私が着ているのはUNHCRユースのTシャツです。若者の大胆な行動力とアイデアが、UNHCRを、そして難民支援のあり方を少しずつ変えつつあると感じます。これを着ていると、私までパワーを得られるような気がします。どうです、似合いますか？

UNHCR駐日代表 滝澤三郎

ABCクッキングスタジオの冒険 難民の美味しい笑顔を夢見て

ABC

Cooking Studio

株式会社 ABC Cooking Studio

「難民には興味がないヒトでも、難民の食べてるモノには関心があるんじゃないですか」

2006年2月13日に行われたタイのタムヒン難民キャンプでの味の交流は、そんな一言から始まった。難民のキャンプでの食生活は単調だ。どうせ行くのなら難民の食生活を調査するだけでなく、彼らに世界中で人気の日本料理を届けよう。ただ、高価な食材を持ち込んで1回だけのご馳走を作るのではなく、現地で調達できる食材を使って難民が普段食べられるレシピを置き土産にしよう。そんな我が儘な願いを叶えてくれたのが、ABCクッキングスタジオの横井社長（現（株）ABC HOLDINGS 代表取締役）と山田シェフだった。それどころか「減多にない機会なので、ABCの生徒に難民の料理を習わせたいんですけど」と横井社長の提案。日本料理を教える、難民の食事を調査する。そんな我々の心を蝕む傲慢さを清清しく打ち砕い

てくれた。その上横井社長自らスタッフを率いてキャンプまで同行する行動力。ABCクッキングスタジオ、伊達に19万人の女性生徒を集めていませんね。

山田シェフが工夫を凝らして考案したのが、肉じゃがと焼きおにぎりだった（編集部注：Refugee is... 第2号8頁参照）。その代わりにABCの生徒さんやUNHCRのインターンたちが、難民のお母さんたちからカレン族の伝統料理であるなまずのカレーや米粉のスープなどを教わった。

美味しい料理はどんな人でも自然に笑顔にさせる。たとえそんなには美味しくなくても（容赦なく辛かったりもするし）、皆で一緒に作る料理は楽しい。山田シェフとある難民のお母さんの顔がそっくりだったりすると、それだけ



難民キャンプのお母さんに焼きおにぎりの作り方を教える山田シェフ
©ABC Cooking Studio

で笑える。そんな話を友達にすると「肉じゃがの作り方教えるから、カレン族のレシピを教えてください」という可愛らしい記事にしてくれた（ソトコト2006年5月号）。

料理を通じた難民支援。ABCクッキングスタジオの冒険は始まったばかりだ。

関連情報：
<http://www.abc-cooking.co.jp/profile/v-report.asp>

山田レシピの 後日談

2007年2月26日、ユニクロの衣類を届けるためにタムヒン難民キャンプを訪れた日本からの訪問団に難民のお母さんたちが暖かい手料理で出迎えてくれた。「私たち日本料理作れるのよ」とちょっと誇らしげ。

ひょっとして…やはり…振舞ってくれたのは山田シェフ直伝の「焼きおにぎり」と「肉じゃが」だった。焼きおにぎ

りはそれなりの三角にニギニギまとまっていた。肉じゃがは馴染みの味よりかなりスパシーな味付けに変貌していたが、山田シェフのレシピがカレン族のお母さんたちに引き継がれ、新しい

お袋の味としてキャンプのみんなに愛されていると実感した瞬間だった。

帰国後、山田シェフに報告したところ、「めっちゃ嬉しいです」と感動しつつ、「横井社長の許可があれば、またいつでも難民キャンプに行きますよ」と宣言。横井社長、山田シェフ、次なるチャレンジはアフリカの難民キャンプでしょうか？



焼きおにぎりを楽しそうに作る女性たち
©ABC Cooking Studio



2100カロリーと

17円 の食事

トウモロコシ・大豆混合品を食べる子どもたち
©UNHCR Kakuma

カクマ難民キャンプにおける
食事



食糧配給所
©UNHCR Kakuma



ひよこ豆を使った料理
©UNHCR Kakuma

ケニア・カクマ難民キャンプ

ケニアとスーダンの国境沿いにあるカクマ難民キャンプには約6万人の難民がいる。彼らは1ヶ月に2回、食糧の配給を受けている。その中身は、ひきわり小麦(210g)、小麦粉(210g)、植物油(25g)、塩(5g)、豆(60g)、そしてトウモロコシ・大豆混合品(55g)である。

食糧の内容は「美味しさ」や「好き嫌い」ではなく栄養価で決められる。UNHCRでは2100カロリーが基準であり、ほかにタンパク質やミネラルなどのバランスが考慮される。2006年3月の相場では、この組み合わせで1人1日17円である。時折、落花生やひよこ豆の配給があるが、いつもは3~4種類の穀物類の組み合わせで食事を作る。もちろん新鮮な野菜はめったに手に入らないし、魚や肉は言うまでもない。それでも難民は、生きるために食べる。山田シェフはアフリカの難民キャンプに、「食べる喜び」をもたらすことができるだろうか。

Food



日田天領水

難民キャンプの 井戸120本

株式会社 日田天領水

「多くの方に『日田天領水』を愛飲していただき、世界中の人々に健康になって欲しいと願い、何かお礼ができないかと考えていました。そんな時、世界各地の難民への給水事業の話を目にしました。私たちが支えてくださっているお客様からいただいた優しさで、給水事業を支援することによりお返しができるのではないかと考えています」

2003年より毎年、難民キャンプの給水事業を支援。2007年までに、約24万人の生活を支える井戸120本分に相当するご支援をいただいている。

関連情報：
<http://www.hitatenryosui.co.jp/unhcr.htm>



タンザニアの難民キャンプ
きれいな水が難民の生活をささえる
©UNHCR/L.Taylor

Food



うれしいを、しっかり。

社員食堂で 2400食

株式会社 ジェシービー

「うれしいを、しっかり。JCB」という企業スローガンにかけて、社員食堂で難民支援キャンペーン、「食べることから始める社会貢献～うれしいは難民のため、しっかりは自分のため～」が実施された。キャンペーンメニューを選ぶと、売上げの一部が日本UNHCR協会を通じて、世界の難民支援活動に役立てられるというしくみ。「100円で、1人の難民に3日分の食事を届けられます」とアピールし、社員が気軽に参加できる社会貢献として、1ヶ月の開催期間中に、キャンペーンメニューおよそ2400食のご協力をいただいた。

関連情報：
<http://www.jcb.co.jp/>



©日本UNHCR協会

チャリティーサッカー サッカーしかできなくても難民支援



東京ヴェルディ1969

「僕ら、サッカーしかできないけど、それで難民支援になるんですか？」

2006年3月、サッカー好きの戸倉さん(当時JEN職員)に懇願されてよみうりランドまで同行し、最初に東京ヴェルディ岸田広報部長(当時)に会った時、言われた言葉である。それから3ヶ月後の「世界難民の日」(6月20日)の前夜で、ホームゲームを難民のためのチャリティーサッカーにいただいた。試合前の電光掲示板の中で難民の子どもがサッカーボールを蹴る。DJが「今日は何の日か、知ってるかい?」と観衆に訴える。UNHCRやNGOの職員が募金を集める。ただサッカーを観戦に來ただけの人がたとえ一瞬でも世の

中の難民に思いを馳せる。そうやって、東京ヴェルディ1969とUNHCRとNGO(J-FUN)の協力は始まった。

「スポーツ」をキーワードに積極的に社会貢献を行っている東京ヴェルディ1969であるが、難民支援は、まだ手探りである。東京で助けを求めている人(例えば三宅島の避難民)もいるのになぜ難民支援なのか?社内のそんな声にも答えていかななくてはならない。それでも志は勝澤広報部長や谷さんに引き継がれ、今年もまた難民の日チャリティーサッカーを主催していただいた。難民フットサル大会(下記参照)のために選手のサイン入りサッカー用具を寄附していただき、難民の選手と家族300名を国立でのホームゲームに招待してくれた。

東京ヴェルディ1969のおかげでサッカーを通して難民を励まし、普通の人々が難民問題に触れる機会が増える。サッカーがいいんです、岸田さん。これからも宜しくお願いします。

関連情報:
<http://www.verdy.co.jp/>



©東京ヴェルディ 1969

難民フットサル大会 One Ball, No Border



「世界難民の日」フットサル大会実行委員会

「今年は難民の選手も応援する家族も、僕らお手伝いする側もみんなが楽しめることを第一の目的にしたいんです」UNHCRに共催を持ちかけに來た主催者の一人である矢口さんは、祭りを前にした子どものように話していた。

難民であることは、苦しいことの方が多い。それは支援するNGOや市民団体にも言えることだ。だからこそ一日だけでも楽しいフットサル大会を開催したい。場所が昨年(2006年)のように日産スタジアムでなく板橋区の中学校でも、小雨がぱらつくあいにくの天気でも、岡田元全日本サッカー監督や宮崎京ミス・ユニバース世界5位

(2003年)も応援に駆けつけてくれて、難民の子どもと泥まみれになりながら行ったエキシビジョンも含めて、今年のフットサル大会は確かに楽しかった。UNHCR駐日事務所チームも、立ち上げたばかりのUNHCRユースの活躍もあり、1勝1敗1分と予選落ちながら善戦した。

楽しい一日のために、多くの関係者や選手たちが準備に練習に明け暮れた。フットサルは一日で終わっても、難民の人生もUNHCRやNGOの支援活動は続く。「だから一日だけの大会ではなく、試合の前の練習も、終わった後の付き合いも含めて、

フットサルを通じた難民と日本人の連携にしたいんです」と、矢口さんは言う。

One Ball, No Border!
難民フットサルのもたらす意味をしみじみと噛みしめている。



©UNHCR

ネパール・バレーボール・ミッション 最後はボール、自分で拾いました



**NPO法人
バレーボール・モントリオール会**

「最初はボール拾いは人まかせだし、初日が終了した時点でボールはなくなるし、どうなることかと思ったけれど、何度も日本語で言い聞かせるうちに、わかった?と聞くと、首を横にかしげて、ハイと返事してくれるようになって、本当に可愛かった」

2007年4月、1976年のモントリオールオリンピックでの日本女子バレーボール金メダリスト3名がネパール東部を訪れ、バレーボールの知識や技術を伝え、難民の若者と交流した。

ブータンから逃れた難民が避難しているベルダンギIIキャンプへの3日間の訪問中に、ボールや専用シューズといっ

たスポーツ用品が白井貴子さん、金坂克子さん、矢野廣美さんたちから贈られた。彼女たちはモントリオールでソ連を3-0で破って金メダルを獲得した時のチーム12名の一員である。

ベルダンギIIキャンプは、難民約10万6000人が住むネパール東部の7つのキャンプのうちの1つだが、今回の訪問はキャンプの子どもたちや若者に暖かく迎えられた。長年使い古された安価なボールにかえてプロ用のバレーボールが贈られると、彼らは興奮を隠しきれない様子だった。

バレーボールのトレーニングをサポートするため、早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンターの職員1名、早稲田大学学生4名も参加した。また、スポーツトレーナーで鍼灸師の稲葉俊

顕さんによるマッサージ教室や、写真家の山崎康司さんによる写真教室も同時に開催された。

今後、一部のメンバーでネパールの難民キャンプを再訪問する予定。難民キャンプでのバレーボールの浸透度を確かめつつ、更なる交流を深めてくることだろう。

関連情報:

<http://montreal.sports.coccan.jp/>



ベルダンギII難民キャンプでバレーボールの指導をする白井貴子さん
©フォート・キンモト

三菱ダイヤモンドカップゴルフ

三菱ダイヤモンドカップゴルフ 2007

**三菱グループ
関西テレビ放送株式会社
SRIスポーツ株式会社**

国内屈指のゴルフトーナメントである三菱ダイヤモンドカップゴルフは、「ふれあい、感動、そしてチャリティ」



チャリティ基金贈呈式の三菱繁光大会名誉会長(右)と滝澤三郎UNHCR駐日代表(左)
©大会事務局

をスローガンに、ODAのような大規模事業ではなく、より実生活に密着した活動をしている団体への支援を趣旨としている。主催の三菱グループ、関西テレビ、SRIスポーツのみならず、ギャラリー、ボランティア、選手会、そして開催ゴルフ場もチャリティの趣旨に賛同し、開催地域の福祉活動とUNHCRの難民援助活動へ継続的な支援を実施している。

難民援助活動へは、日本UNHCR協会を通じて、総額で約5697万円ものご寄附をお寄せくださっている(2003～2007年大会)。これは、ゴルフトーナメントとしてのみならず、日本の民間の皆様からのご寄附では最大規模のひとつである。また、関西テレビの大会放映中に、UNHCRの活

動について紹介していただき、難民支援への理解と啓蒙においても、本大会が果たしてきた役割は大きい。

大会事務局は、「UNHCRの援助対象者の半分以上が子どもたちと言われています。なかには親を亡くした子どもも少なくなく、これからの新時代を背負っていかなくてはならない子どもたちの成長を少なからずサポートできればと考えています」と、その支援の意義を語っている。国際紛争や様々な迫害によって増加している約3300万人の難民・避難民を援助するUNHCRにとって、三菱ダイヤモンドカップゴルフのような継続的なご支援ほど心強いものはない。

関連情報:

http://www.ktv.co.jp/sports/golf/charity/ch_index.html

UNHCRユースって何？

UNHCRユースは、近年難民問題や人道支援、平和構築などに関心の高い学生が増えていることを背景として、2007年6月20日の「世界難民の日」に発足した、学生を中心とする団体。私たちは、「普段着の難民支援」を目標として、誰でも身近なところから参加できる難民支援活動を行っている。メンバーは東京に限らず全国から集まり、発足からわずか3ヶ月程度で山梨や群馬、さらには関西圏など120人を越える学生が集結した。

また、このUNHCRユースは、多くの面で「独自性」を有している団体であり、その大きな特徴は、UNHCR駐日事務所の附属学生団体であること。UNHCR駐日事務所との連携により、同事務所の強力なバックアップを受け、職員の方々から直接お話を聞かせて頂く貴重な機会に溢れている。

また、先述した「普段着の難民支援」の観点から、メンバーの関わり方もそれぞれ。ライフスタイル、関心を踏まえ、自分が関わるときに関わるだけ活動している。「難民について全然知らないが、興味を持っており、少しでも自分で何かをしたい」といった考えを持った人たちも、ぜひ気軽に参加して欲しいと考えている。

UNHCRユースの企画の5本柱としてある、『表参道ジャック』、『キャンプサダコ』、『難民支援勉強会』、『ART×Refugees』、『模擬難民キャンプ』のうち、3つの企画と、関西圏の活動をご紹介します。

キャンプサダコ

キャンプサダコは若者達が難民支援の現場を実際に体験し、難民問題への理解を深めるためにUNHCRがNGOの協力を得て、1993年から2000年まで行っていた研修プログラム。UNHCRユースは①難民支援に対する日本の若者の理解促進、②日本の若者が難民支援の現場を経験する機会の提供、という2つの目的のもとにキャンプサダコを復活させ、「若者の視点で感じた難民支援を同世代の若者に伝えていくこと」の実現を通じ、難民支援をより身近に感じられる社会を目指している。

難民支援勉強会

「難民支援」って何だろう？「難民」ってどんな人たちのことだろう？そんな疑問に答えるのが難民支援勉強会(RASC: Refugee Aid Study Club)。難民について知ることが、UNHCRユースの活動の根本であり、出発点でもある。RASCでは、2007年9月から12月まで、月に2回ずつUNHCR職員による連続講義を開催している。UNHCR職員から直に講義を受けることで、難民についての知識を深めている。この知識をベースに、来年1月以降は個人の興味に分かれて、難民問題、平和構築、人間の安全保障などをテーマに少人数で自主的な勉強会を行う予定。また、中・高校生を対象とした出張授業を行うことで、若者世代が難民問題に関心を持つきっかけをつくる。

UNHCRユースがやってくる



[UNHCRユース公式ホームページ]

<http://www.unhcr-youth.com>

UNHCRユースは
今何をしているの？

表参道ジャック

「あなたにもできる難民支援」というスローガンの下、表参道というファッションな土地柄を利用して、行き交う人々が寄り道気分で参加できる秋の一大イベント。それが「表参道ジャック」。

2007年11月26日、J-FUN・UNHCRユース共催で行われる表参道ジャックは、日常生活で難民問題に触れることが少ない人々に、難民について一瞬でも考えてもらえたら、あるいはそのような場を提供できれば、という強い思いから誕生した。

また表参道ジャックには、数多くの経験を積んだ大人の知恵やスキルと、若者の行動力・柔軟な創造力とのコラボレーションによる4つの企画がある。難民の存在を視覚的にアピールするための「ミニパレード」。表参道の路面店を巡りながら難民の現状を知ることができる「ウォークラリー」。さらに「難民レストラン」での食事。平和への願いを込める「キャンドルナイト」でフィナーレとなる。その他にも、CSRシンポジウムや疑似難民キャンプ、写真展など多くのイベントが開催される。これらは全て、多くの企業や街の人々との協力によって実現可能となった。

「知る」だけでなく、「考える」。難民支援の出発点にもなり得るのが、この表参道ジャックである。

関東以外にも
ユースはいるの？

関西ユース

UNHCRユースは関西でも積極的に活動。UNHCRユースの立ち上げとなった2007年6月20日の「世界難民の日」には、関西学院大学神戸三田キャンパスにおいて映画上映やトークイベントなど、特にアフリカに焦点を当てた難民に関する啓発活動を行った。現在は関東地区の学生と連動しながら、月2度の定例ミーティングの中で「難民支援勉強会」を実施して国際情勢・国際協力に理解を深めると共に、「キャンプサダコ」の派遣及び啓発に向けて準備をしている。また、地域に根ざした活動として関西圏で開かれるイベントへの参加に向け、UNHCR駐日事務所と協働で準備を進めている。今後、「普段着の難民支援」という標語のもと、さらに楽しみながら成長と国際貢献を意識して活動していきたいと考えている。

UNHCRユースからの メッセージ

「難民問題」というと、あまりに大きな問題すぎて「自分にはできることは何もない」と遠慮さに見えてしまうかもしれない。まずは考えることから始めてみたらどうだろうか？特別な知識は必要ない。「自分に何ができるのかわからないけど、何かしたい！」そう思ったときに、UNHCRユースを一つの入り口として考えてみてほしい。

また、UNHCRユースの活動は多くのNGO、企業の方に支えられており、資金の提供だけではなく、普段のお仕事をそのまま支援につなげていく試みがなされている。

UNHCRユースに興味を持たれた方は、HPもあわせてご覧いただきたい。

タイトルは、ユニクロの全商品リサイクル活動で全国から回収された衣類を難民キャンプに届けた模様を紹介した写真展での来場者の声。全国規模で難民支援を多くの人々にとって身近なものにしているユニクロの全商品リサイクル活動の嬉しい成果。

株式会社 ユニクロ

うる→かう→もどす→
おくる→よろこぶ

「持ちこまれるユニクロ商品を見て、こんなに大事に着ていただいているのを見ることも嬉しい」と語るのはユニクロ渋谷スペイン坂店の名田和世さん。通常の販売とは違う形のお客様とのやり取りにむしろ楽しみを見出している。「自分たちが販売して、またこのように店頭でお預かりした商品が難民キャンプに贈られ多くの方々の笑顔につながっていると思うと頑張れます」2006年9月からは、「全商品リサイクル活動」がスタートし、毎年3月と9月に店頭で着なくなった商品を受け入れる。

(株)ユニクロCSR部
小柴英子さん

「本業で得た利益の一部を、社会貢献やボランティアに取り組みさえすれば社会的責任を果たすことができた、と満足できない時代なんですね。本業とは別に考えるのではなく、本業そのものへの取り組みのなかで実行してゆかなければならない。日常的な企業の姿勢が問われているのです」と全商品リサイクルを始めたきっかけを説明する。また「ただ単に配布をするだけではなく、お客様の善意を胸に、私たちの心も一緒に届けなくてはならない。難民の閉ざされた生活の中で衣服がほんの少しでも楽しみや潤いを感じられるような支援を工夫したい」



Fashion

あっ、私と同じ フリース着ている



ユニクロの全商品リサイクル活動を通じた 普段着の難民支援

(株)ユニクロ 執行役員
新田幸弘さん

と、再利用される衣類を現場のニーズに合わせて分類し、倉庫で一時保管し、UNHCRで一番必要としている地域に送り届ける。社内のボランティアグループにも関わっている小柴さんは、社員が関わるこの活動を現地での難民の人々が喜ぶ顔を見たときに、「ああやってよかったな、とつくづく思いましたね」 「全商品リサイクル」は、ユニクロのCSR (Corporate Social Responsibility= 企業の社会的責任) 部が担当している。CSRとは、社会と企業の関係を問う言葉のひとつ。次の世代にバトンタッチすることのできる持続可能な社会を実現するために、企業が社会や環境に与える様々な負荷や影響について責任を持ち、その解決のための活動を実施する。



ネパール、ベルダンギキャンプで衣類を嬉しそうに受け取る難民 ©上岡伸輔

「入口から出口まで責任を持って、自分たちの目で確認してこの活動を継続することが重要です」と、自ら「全商品リサイクル」活動の各場面を体験し、CSR部を率いる新田幸弘さん。ネパールやタイの難民キャンプで「食糧、水、薬品のように優先されるものは配布されても、資金が滞ると、よほどの寒冷地は別として衣料品は我慢できるもの扱いになってしまいます。難民キャンプでは衣料品の配給が不足しており、その対応を考えなければいけない時期にさしかかっていたというタイミングで、ユニクロの新しい取り組みが無理なく一致することになりました。何よりも受けとった難民の笑顔が励みになります」

新田さんと小柴さんはネパール、タイに続き、ウガンダとタンザニアの難民キャンプに衣類を届けに行かれる予定。

関連情報:
<http://www.uniqlo.com/jp/corp/csr/>



Fashion

UNHCRユース立ち上げ直前の座談会で、菊川怜さんは2年前初めてケニアのダダブという難民キャンプを訪問したときの印象を語ってくれた。女優、タレントとして多忙を極める菊川さんがUNHCR駐日事務所のスペシャルサポーターとして活動を始めて3年が経とうとしている。その間、難民キャンプを訪問するだけでなく、所属するオスカー事務所の女性タレントと運動会をして募金を集めたり、ヤフー知恵袋やユニクロ・ファッションショーを通じて難民問題について伝えるメッセンジャーの役割を果たしてくれている。

女優、

菊川怜の祈り

遠く見えるけれども、
じつはすごく近いんだよ



UNHCR駐日事務所
スペシャルサポーター・
女優
菊川怜さん

「難民キャンプでも子どもはほんとに元気ですよ。そして、自分の意見が結構しっかりあったりするんです。政治家になりたいとか、サッカー選手になりたいとか、お医者さんになりたいとか。将来を変える力のある職業を目指す意識が高いところがあって、びっくりしました。しかも嬉しそうにいうんですよ。私だったら、いつここから出られるかわからない、くじけちゃうと思うんですけど、すごく目が強かったので驚きました」

Fashion

「僕は自分が難民だということを周囲の人たちに話すことにしました。インシュタインもオードリー・ヘプバーンも自分が難民だということを自信をもって話してきました。僕はそのことに深く感銘し、僕も自信を持って歩いていくことを決めました」

焼けた肌に長髪姿の青年が、長いまつげを揺らしながら静かに語る姿は、およそ難民の持つ一般的なイメージとはかけ離れている。ザニーさんは、1988年のミャンマーの民主化運動に参加して日本に逃れてきていた父親を頼って、9歳のとき日本にやってきた。小中高と日本の学校に通い、その後雑誌やショーなどでモデルの仕事をこなしながら2007年3月に亜細亜大学を

ザニーさんの挑戦

P.S.

I am a Refugee



卒業し、今は青山骨董通りに本社を置く2社のファッションブランドとデザイン契約を結びプロデュースに参加している。

ザニーさんは、仕事柄のイメージのため難民であるという出自をこれまでなるべく隠してきた。「でも今は世界の現状、世界の難民問題を、より多くの方々に知っていただくことが一番重要で、僕はその広報役としてなんらかの形でお手伝いをしていきたいと考えています。その一歩として僕の関わっている全てのアパレルの店舗にUNHCRの募金箱を置くことを検討しています」

©篠原善太郎

第2回「難民映画祭」開催

2007年7月18日~26日(東京)

会場：東京日仏会館、イタリア文化会館、スウェーデン大使館、Goethe-Institut ドイツ文化センター
 協賛：株式会社ABC Cooking Studio、キャノン株式会社、
 光都東京実行委員会、株式会社富士メガネ
 協力：A.R.T. Collection、株式会社バービーハウス、
 株式会社クリエイティブ・ガレージ、株式会社ディー・アンド・アイベックス、
 ソニー株式会社、オグルヴィ・アンド・メイザー・ジャパン株式会社

国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) 親善大使
アンジェリーナ・ジョリー

"Film is an important medium to introduce the many aspects of the lives and circumstances of refugees across the world, and through this entertainment vehicle, create better awareness and understanding."

「映画は、難民がおかれた状況や生活のさまざまな面を私たちに見せてくれる大切なメディアであり、映画というエンターテインメントを通じて、難民問題に対するよりよい意識や理解が育まれていくことでしょう」

世界各地で起きている紛争や迫害によって故郷を追われる人々-難民の問題に焦点を当てた映画30本を上映する「難民映画祭」が今年で第2回をむかえた。

難民問題を身近に感じ、より深い理解と啓発、支援を行う目的で始まった「難民映画祭」。故郷を追われるということに馴染みが少ないこ日本で、難民とはどのような人々なのかをビジュアルで伝える映画は格好のツールとなっている。テレビ、ラジオ、新聞、雑誌など多数のメディアに取り上げられ、今年はプレ上映を含め、昨年の2倍となる約7000人が来場した。

第8代国連難民高等弁務官緒方貞子さんから寄せられたメッセージやこの映画祭ならではの特別イベントは大きな魅力だ。世界の医療団日本支部名誉委員会会長フランソワーズ・モレシャンさんを招いての講演や元カンボジア難民であったリティー・パニユ監督、『TAIZO』の中島多圭子監督とのトークセッション。そしてケニアの難民キャンプで作られた難民による映画の上映後にはSkype(スカイプ)を利用して、製作者である難民と会場との交流も実現した。

自分たちにできる難民支援はないのか…困難な状況の中でも力強く生きる人々の姿に触れ、多くの声が寄せられた。難民が私たちと同じように自己表現し、尊厳をもって生きる人々なのだ気づくこと。これも難民支援の第一歩である。

関連情報：http://www.refugeefilm.org/



会場内の様子 (Goethe-Institut ドイツ文化センター) ©UNHCR

「難民映画祭」に寄せて



駐日ルワンダ共和国特命大使

エミール・ルワマシラボ閣下

"When refugees finally go back home, they may face another predicament, that is, reconciliation. There, forgiveness is an essential element. Refugee Film Festival is an excellent tool to deliver such important messages to those who are not familiar with refugee issues."

難民がようやく母国に帰還しても、彼らは和解という新たな課題に直面するかもしれません。このような和解には相手に対する寛容な心が必要となります。「難民映画祭」は難民問題になじみのない方々にも重要なメッセージを伝える素晴らしい手段です。

映画が拓く可能性



エイベックス・マーケティング株式会社

飯島真さん

第2回「難民映画祭」も大成功でしたね。本当に素晴らしい事だと思います。

この春劇場公開されたアフリカ諸問題を題材とする映画が現在軒並みDVD化され、今度はDVD店頭も熱くなってきております。本作(『ルワンダの涙』)も劇場公開時に続いてTVや新聞等で取り上げていただき、社会的注目の高さを改めて感じている次第です。

こうした映画が入口となり、少しでも多くの人に様々な現実を知ってもらうことが問題解決の糸口に繋がるのであれば、今やそれは同時に僕のささやかな喜びです。そんなことを真面目に考えた映画祭でした。コンテンツに恵まれた際は是非協力させていただきます!

来場者の声より

- 映画をみることで具体的な難民の姿がわかるので、とても心が動かされます。
- 日本人以外の人と触れ合う機会の少ない日本ではこういう映画を通して少しでも世界の現状をもっと身近な事として話し合い、行動に移せればと思う。

映画が伝える世界の状況



岩波ホール

岩波ホール支配人

岩波律子さん

岩波ホールでご紹介した世界の名画の中でも、アフリカの難民の少年を主人公にした『約束の旅路』の背景には、私たちの想像を超える歴史や宗教、政治の複雑さがあります。私たちは、生き延びるためにユダヤ人と偽ってイスラエルに移住した少年の激動の運命に胸を揺さぶられました。日本の観客の方々にこの立派な作品を通じてアフリカの状況を知って頂くだけでなく、現地の方々に多少でもお役に立てればと募金を行い、多くの方にご協力を頂きました。日本にも、世界の情勢に関心と理解を持つ人々が増えてゆくことを願っております。

映画を通じて考える



日本UNHCR協会評議員・俳優

滝田栄さん

「最近の映画やテレビは現実逃避型のロマンや切った張った、あるいはお笑いに終始する傾向がある。難民映画祭を通じ、世界で起きている現実を目を向けてもらいたい」第1回「難民映画祭」から参加いただいている俳優の滝田栄さん。映画を通じ、難民と難民をとりまく背景に興味を持って知っていただくことの重要性を熱く語っていただきました。「世界には多くの難民絡みの映画があり驚いた。単に難民キャンプの生活のみでなく、否応なく難民になってしまった普通の人々の日常から発生する悲哀なストーリーなど考えさせられることが大でした」

来場者の声より

- 私は大学で平和について学んでいます。いろんなことを知るたびにたくさんの方のことを学び知れるのに、自分の無力、人の無力を同じくらい知る。しかし、知らなければもっと平和は崩れていく。貴重な機会をありがとうございました。



世界の難民についてよくわかる映画の紹介

1 ルワンダの涙



©BBC, UK Film Council and Egoli Tossell 2005

アフリカの大地で起こった20世紀最大の悲劇。生きるための選択が、そこにはなかった。100日で100万人が殺害された「ルワンダ虐殺」を描いた真実の物語。2006年英国アカデミー賞ノミネート作品。

2 Invisible Children

一見えない子どもたち



©Invisible Children

アメリカに住む3人の大学生がウガンダを訪れた。そこで彼らは、LRA(神の抵抗軍)という反政府武装勢力により平穏な生活を奪われた膨大な数の子供たちに出会う。否応なしに紛争の影響を受けながらも、力強く生きる人々に光をあてる。

3 約束の旅路



父や兄弟を失い、母と2人、難民キャンプにたどりついたエチオピア人の少年。生きるために、母は少年にユダヤ人と偽ってイスラエルへ脱出するよう命じる。母と別れ、故郷から遠く離れ、真実の名前を隠して生きる新しい地。エチオピア系ユダヤ人をイスラエルへ移送するという「モーセ作戦」の史実から生まれ、各国映画祭で圧倒的な観客の称賛を得た感動作。

4 レフュージー・オールスターズ



アフリカ・ギニア難民キャンプで暮らす隣国シエラレオネ出身の6人は、レフュージー・オール・スターズというバンドを結成し、音楽を通して生きる希望を見出してゆく。難民として生活することの意味を考えさせられる感動のドキュメンタリー。

極上のチャリティーコンサート

じゃがいもの会

「振り返れば22年前、江戸時代の大飢饉の際に多くの人の命を救ったジャガイモのように、地味だけれど人のために役立つ存在でありたいとの思いを込めて、『じゃがいもの会』としてスタートした私たちの活動でした」

歌手の森進一さんが中心となって1985年から毎年続けられてきた「じゃがいもの会チャリティショー」が2007年5月、第23回をもって一区切りを迎えた。観客、出演者、多くのボランティアの方々の努力によってご寄附は毎回1000万円を超え、第19回以降の5年間は、日本UNHCR協会を通して、UNHCRおよび難民教育基金^(注)が実施する難民の教育支援事業に充てられた。NHKホー

ルのロビーには、NGO数団体が出展したお土産ショップが並んだ。「じゃがいもの会」が育んだ平和への思いは、これからも継承され、広がり、世界をつないでいくに違いない。

(注) UNHCR設立50周年記念事業として、2000年12月にスイスに設立されたNGOで、難民の中・高等教育支援を目的としている。

朝日チャリティーコンサート

「日本人の難民に対する意識は決して高いとは思われません。遠い国の人、こちらだって地震も台風もあって大変なのに外国まで手はのばせない、という考えもあります。でも日本の中で飢え死にする人はまずいません。むしろ飽食の時代、食べ放題捨て放題の時代とも言えます。テレビをひねれば誰かしらが何か



2007年5月17日にNHKホールで開催された第23回じゃがいもの会チャリティショー ©じゃがいもの会

食べています。(中略) 100万円もする値段のワイン、ステーキ、キャビア。その分を難民にまわしていただきたいと思ってしまう」(2006年プログラム挨拶文から引用)

歌手として60年を超える時代を過ごしてこられた石井好子さんが中心となって、1996年から毎年4月、有楽町朝日ホールで「石井好子とシャンソンの夕べ」が続けられている。開演前と終演後には、恒例の行事として、出演者数名がロビーに出てにぎやかに募金を呼びかけてくださっている。

関連情報：
<http://www.morishinichi.jp/potato.html>
<http://www.paris-sai.com/asahi.html>

ライブ・アンド・トーク 国会議員が楽器を持てば…!?

Gilnz (ギンズ)

「音楽を通して我々の熱い気持ちが伝わると嬉しいです」と熱く語ってくれたバンドマスターの林芳正さん。

現職の国会議員がこれからの若者、日本、世界への熱いメッセージを大演説や、堅苦しいプロパガンダではなく

でもっと親しみのもてる伝え方—音楽—で発信している。軽快なポップスやロックのメロディーにのって、メッセージは新しく生まれ変わり、ことばも国境を越え、多くの人々と共有することができる。コソボ紛争難民支援から始まり、スマトラ沖地震津波復興支援のために奏で、2006年6月24日の「世界難民の日」フォーラムでは「ライブ(演奏)・アンド・トーク(演奏と歌を盛り上げる軽快な)」で会場を沸かせてくれた。難民支援の現場で出会った子どもたちの「モノはいらない、平和な故郷に帰りたい」想いを音楽にのせて。

関連情報：
<http://www.gilnz.com>



©Gilnz

歌詞

遙かなる想い 詞：松山政司

明日を夢に見ながら沈む夕陽を追いかけ
他には何もいらない、平和だけをください

果てしなく広がる大地に
今でも争いは続くけど
命ある喜びで羽ばたく

青く澄んだ空よ、遙か遠い故郷
国境を越え吹く風よ 想い届けて

生まれた意味を問かけ子どもたちは見つめる
迷える日々の暮らしに笑顔だけはなくさず

荒れ果てた歴史を踏みしめ
町をもう一度築こう
新しく湧き上がる力で

父がくれた強さ 母がくれた温もり
抱いて今日を生きよう いつか会えると

青く澄んだ空よ 遙か遠い故郷
国境を越え吹く風よ 想い届けて
国境を越え吹く風よ 想い届けて

絵本

©日本UNHCR協会ボランティア・
絵本プロジェクトチーム

日本UNHCR協会ボランティア・
絵本プロジェクトチーム

『ほんの すこしの 勇気から』

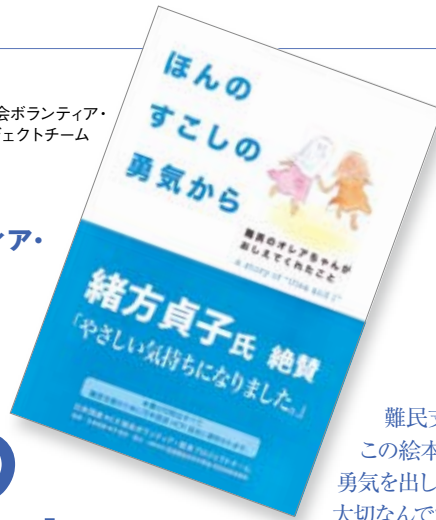
難民のオレアちゃんがおしえてくれたこと



2005年、グテーレス難民高等弁務官に
絵本『ほんのすこしの勇気から』が贈呈された。
緒方貞子元難民高等弁務官と二人そろって記念写真。
©日本UNHCR協会

「この絵本は、日本UNHCR協会でのボランティア活動で出会った、職業も生活圏も異なる人たちとともに、全く自発的に作ったものです。誰にたのまれたわけでもないのに、この本を作ることはいつしか、私の中でどうしてもやらなければならないことになっていました」

絵本『ほんのすこしの勇気から』は、戦争が起きている国から転校してきた難民のオレアちゃんの隣の席になった「わたし」が「ほんのすこしの勇気」を出すことで、次第に心を通わせていく物語である。人の痛みを感じられるあたたかい涙とやさしさにあふれた作品だ。日本国連HCR協会(当時)が2004年に企画した「助っ人講師養成講座」に参加した小口みすずさん(旧姓:岩森)が「誰にでも分かりやすく、



A story of
“Olea and I”

本書には、
次のような
コメントが
寄せられている。
(敬称略)

難民支援は何も特別なことではなく、この絵本の少女のように、ほんのすこしの勇気を出して、友達に手を差し伸べる気持ちが大切なんです。皆さんにもきっとできることがたくさんあると思います。

ぜひ、世界の様々な人々に対して心を開き、勇気を出して一歩を踏み出してください。

緒方貞子

(元国連難民高等弁務官)

この本を読んで、みんなにもっと知ってほしい、世界のこと、自分のこと、そしてみんなの幸せのこと

菊川怜

(UNHCR駐日事務所スペシャルサポーター)

ひとりの歌手として、ひとりの人間として心がゆさぶられました。僕も、勇気を出していきます。

森進一

(歌手)

子どもたちに『たのしい』と『うれしい』をあたえるには、おとなの『ゆうき』が必要なんだね

ホンジャマカ

石塚英彦

(タレント)

しかも共感してもらえる本を作って、難民問題への理解を世の中に広めたい」と助っ人講師のメーリングリストで呼びかけ、手をあげた7人と共にプロジェクト・チームをつくり、初めて絵本制作に取り組んだ。

2005年6月20日「世界難民の日」を記念して刊行されて以来、人々の手から手へと共感の輪が広がっている。

2005年秋には久保純子アナウンサー朗読による貸出用DVDができ、11月にフォーラム「難民支援と国際理解教育」にて披露された。また、2006年11月の第2回フォーラムでは、題材として募集した読書感想文コンクールの表彰式が行われ、入賞者3名が自分の作品を壇上で読み上げた。

小口さんは、この1冊の絵本作りを

通して、思いと勇気の力に気づいたという。「今回巡り合ったメンバーは皆、ずっと心の中で何かをしなくては、と思いつけていた人たちです。原稿をまとめる、デザインを手がける、イベントを企画する、ひたすら本を広めて歩く。皆がそれぞれの得意分野において全力疾走してきました。ほんの少しの勇気を出して一歩を踏み出すと思いが現実のものになり、世界の見え方が変わっていきました」

本書の印税はすべて難民支援活動にご寄附いただいている。

関連情報:

<http://www.japanforunhcr.org/data/orea.html>

絵本購入に関するお問合せ先:
(株)求龍堂 (TEL 03-3239-3381)
定価 1,000円



手作りおもちゃで遊ぶ子ども。
ネパール、ゴールドアップ難民キャンプ。
©上岡伸輔

じるその悲劇は私たちに少なからぬショックを与える。記憶に爪を引っかけるように彼らの姿が頭の中に居座る。しばらくのあ

い。メディアの報じるその悲劇は私たちに少なからぬショックを与える。記憶に爪を引っかけるように彼らの姿が頭の中に居座る。しばらくのあ

波つ子の小競り合いが何百年

ささやかな幸福も、そこでは

難民、という言葉から私たちがまず連想するのは、着の身着のままに陸に流れ着いたボートピープルや、急ごしらえのテントで雨風を忍ぶ瘦せこけた人々、黒柳徹子さんに抱かれた子どもの姿などだろうか。命からがら母国より逃げ、国境を越え、ようやく辿りついた先では厄介者扱い。国際機関の支援がなければ今日食べるものもない。メディアの報

いでは。しかし、やがては忘れる。あの後、あの人たちはどうなったかな、などと思いつくことはない。あの人たちはどうなったのか？ 無論母国へ帰れる人もいない。内戦が終わった。政策が変わった。和平協定が結ばれた。様々な理由から状況が落ちつき、生まれ育った国でもう一度やりなおすことが可能になった人々。一方、帰れない人々もいる。

民族同士の対立というものは、私たち日本人にはいまひとつピンとこないところがある。たとえば江戸っ子と難波っ子との間で紛争が起こり、一方が政権を掌握、敗れた側が弾圧を受けて近隣国へ逃れ、難民キャンプでの生活を強いられる—なんて話

も前から続いていたとしたら？ 各々が異なる神を信仰し、互いに通じ合えない言語を用いているとしたら？ 江戸っ子である私の肉親や友人が難波っ子に殺されてしまったとしたら？ 政権を握った難波っ子が強硬な同化政策を行い、江戸っ子に大阪弁やツッコミ、関西風うどん汁などの強要を始めたとしたら？ (中略)

でもなれる難民問題についてこれからもときどき深刻に考え、彼らの今後を気にしていきたいと思う。ときどき—というのは、常に深刻であろうとする無理が生じてきつくなり、途中でギブアップしかねないから。末永く、ときどき、自分なりのスタンスで出来ることをしていきたい。

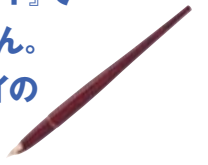
(文藝春秋別冊2007年5月号「ミッション・ポッシブル」難民キャンプ訪問記から抜粋)

関連情報：
<http://www.bunshun.co.jp/mag/bessatsu/bessatsu269.htm>



「作家とは便利な職業でペンと紙さえあればどこにでも仕事ができる」と語ってくださるのは、

『風に舞いあがるビニールシート』で直木賞を受賞された森絵都さん。2007年2月にネパールとタイの難民キャンプを訪問された森さんの目には何が映ったのだろうか。



書くことを通じて伝えてゆきたい

ペンと紙の記録



作家 森絵都さん
Eto Mori

©酒井俊春



難民の青年からスポーツを通じた啓発活動の説明を受ける。
ネパール、ゴールドアップ難民キャンプ。
©上岡伸輔

猛な風に煽られるビニールシートのようにべらべらと吹き飛ばされてしまう、と。今回、訪ねたネパールとタイのキャンプに風はなかった。猛な風が吹きぬけてからすでにそこでは十数年が流れて、キャンプはひとつの村と化し、人々はその土地にしっかりと根を張っているかのように見える。が、しかし彼らの置かれた「難民」という寄る辺のない状況は十数年前と少しも変わらない。膠着状態の中で彼らは逆に新しい風を待っているようにも思えた。第三国定住は良い風になるのだろうか。或いは、いつかは母国へ帰れる日が訪れるのか。深刻になろうと思えばいくらでもなれる難民問題についてこれからもときどき深刻に考え、彼らの今後を気にしていきたいと思う。ときどき—というのは、常に深刻であろうとする無理が生じてきつくなり、途中でギブアップしかねないから。末永く、ときどき、自分なりのスタンスで出来ることをしていきたい。

世界の難民問題を考えてみませんか? Yahoo!ボランティアでコーナー開設

YAHOO! ボランティア
JAPAN

ヤフー 株式会社

「明日から出来ることは募金ぐらいです。後はココ^(※)やブログで『伝える』くらいです。(中略)考え方は違ってそれぞれの考えを投稿して自分の意見を述べてくれるだけでも自分は解決にわずかでも近づいていると思いました」

2007年6月12日から約2ヶ月にわたり、Yahoo!ボランティアで「世界の難民問題を考えてみませんか?」コーナーを開設していただいた。6月20日「世界難民の日」イベントの告知やUNHCR・難民に関する特集記事、また、UNHCR駐日事務所スペシャルサポーターである菊川怜さんが難民に関する質問を投げかけ、ユーザーが

それに回答する、ユーザー参加型のYahoo!知恵袋など、豊富なコンテンツが話題となった。先述のコメントは、「明日から、もしくは今日から、あなたが難民のためにできること、したいことは何ですか?」という菊川怜さんの問いかけに対してベストアンサーに選ばれた回答である。期間中の閲覧数が19万件、回答数は1000件に及ぶなど、Yahoo!知恵袋としても驚きの注目を集めた。

Yahoo! JAPANという巨大なメディアを通じて、広く難民問題を知ってもらう。ボーダーレスなインターネットの世界で、たくさんのユーザーがつなが



Yahoo!ボランティアで開設された「世界の難民問題を考えてみませんか?」コーナー

り合い、知恵を出し、難民問題を考える。現実にはボーダー(国境)によって苦しんでいる難民のために、今回の企画は、インターネット・メディア企業が果たす大きな意義ある一歩となった。

(※) Yahoo!知恵袋

関連情報:

<http://volunteer.yahoo.co.jp/>
([「日本UNHCR協会」で検索])

『約束の旅路』 映画が世界を変えるブログ募金キャンペーン

CinemaCafe.net



『約束の旅路』ブログ募金 © cinemacafe.net

株式会社 カフェグルーヴ

「自分の力で世界をポジティブに変えられたら」「自分のブログへの書き込みが、何かの手助けになったら」という一人ひとりの気持ちが、映画を観る人を増やし、その感動が世界を少しでも平和に近付ける一歩につながってほしい—このような願いから、映画配給元である株式会社カフェグ

ルーヴは、映画『約束の旅路』を通じて、ブログ募金キャンペーンを実施した。これは、『約束の旅路』を観た感想を自分のブログに書き込むと、そのエントリー1つに対して、株式会社カフェグルーヴが、UNHCRに50円の寄附を行うという仕組み。日本で初の試みとして開始されて以来、キャンペーンは話題を呼んで着実な広がりを見せ、2007年1月23日～6月1日の間に、ブログへのエントリー数は井戸1本に相当する1793件に達した。募金は、アフリカの難民に「いのちの水」を届けるための水プロジェクトに活用される。DVD発売を記念して、2007年10月24日よりキャンペーン第2弾を実施。

関連情報:

<http://blog.cinemacafe.net/yakusoku/>

難民キャンプの バイオリニスト

日本UNHCR協会評議員・
バイオリニスト

川井郁子さん

この雑誌が発行される頃には、新たな体験をした川井郁子さんが誕生しているはずである。日本UNHCR協会評議員になった川井さんは、先ず現場に行くことを求めた。音楽を通して難民と交流したい。その気持ちが、2007年11月、彼女とバイオリンをタイの難民キャンプに運んでいく。川井さんにしかできない難民支援は今始まったばかりだ。



『川井郁子Mother Hand基金』からのご寄附を、赤野間征盛日本UNHCR協会理事長にご贈呈いただきました。©日本UNHCR協会



難民推薦入学制度： 教育は未来への投資

関西学院大学が開いた 夢の扉

2004年5月、浅羽俊一郎UNHCR駐日事務所副代表（当時）が講演のため、関西学院大学に来校した。その際、日本では難民が大学に進学することは困難であることを知った平松一夫学長が大学として何かできないか検討。そしてUNHCRが推薦する難民を、正規学生として迎える推薦入学制度を新設することが決まった。日本で初めてのこの制度を利用して2007年4月、2人の難民が入学した。UNHCR駐日事務所が関連のNGOや有識者と共に面接などを行って選抜した2人は学費全額免除で関西学院大学に入学でき、生活費などに充てる奨学金を受け取ることができる。

この新制度の背景には、国連ボラ

ンティア計画と協定を結び、学生を途上国に派遣するなど、国際教育に力を入れてきた関西学院大学のこれまでの実績と平松学長の強いリーダーシップがある。

今年入学した2人は、日本での生活が長いため、日本語に問題はなく他の学生と交友を深めゼミ活動など充実した学生生活を送っている。大学として特別扱いはしないが、国際教育・協力課の職員らが彼らと定期的に連絡を取る。「難民学生と一緒に学ぶことは、日本の学生にとって難民問題や国際問題に目を向ける機会となる」と浅野考平副学長も期待する。今年創設されたUNHCRユース関西チームでも関西学院大学の学生が多数を占め



関西学院大学



©関西学院大学

る。関西学院大学が始めた高等教育ならではの難民支援のあり方が今後、他大学にも広がるのが期待される。

関連情報：
<http://www.kwansei.ac.jp/>

青山学院大学に 引き継がれる志

「キリスト教の理念に『共生』という言葉があります。本学が難民を受け入れることは、その難民学生にとって大きなチャンスとなるのはもちろんですが、本学の学生にとっても、日本で暮らす難民の生活ぶりに触れることになり、今まで知らなかった“現実”を意識する良い機会となるでしょう」

2007年7月30日、首都圏の大学として初めて、青山学院大学とUNHCR駐日事務所の間で難民を対象とする推薦入学・奨学制度に関する協定が締結された。2008年4月から1名の難民が、入学金・学費の全額免除、奨学金の

支給、希望すれば入寮も可能という特典を受けることができる。UNHCRの呼びかけに対し、キリスト教信仰に基づく大学として「地の塩、世の光」をスクール・モットーとする青山学院大学が応えてくれた形である。

インドシナ難民を含め、日本には1万人以上の難民が生活している。彼らは新しい環境の中で生活基盤をゼロから築かなければならないという厳しい状況にあり、しかも経済的事情や母国の事情により、中・高等教育を受ける機会を失っているケースも多い。新しく始まった推薦入学制度は、



青山学院大学



©青山学院大学

能力や意欲のある難民学生に対する未来への投資である。

関連情報：
<http://www.aoyama.ac.jp/>



難民推薦入試で入学 ミヨウさんの決意



難民についての現状を学生に講演しているミヨウさん
©関西学院大学

私は現在、2007年から始まったUNHCR駐日事務所と関西学院大学との難民推薦入学制度の一期生として、関西学院大学の総合政策学部で学んでいます。大学の勉強から16年間離れていたの、最初は戸惑いを感じていましたが、今は大学生活にも慣れてきました。友達もたくさんでき、国際問題について議論を深める機会も多く、毎日が充実しています。

私は貧困問題や平和政策など国際社会が抱えるさまざまな問題に関心があります。大学で勉強したことを将来自分の母国に役立てたいと思っています。そして日本とビルマの架け橋になれるよう頑張りたいと思っています。



小・中・高校生のための学習訪問 ボランティア講師の活動

日本UNHCR協会の学習訪問

「難民が、こんなにもたいへんな生活をしていると思わなかった。どれだけ調べても全てを知ることは難しいと思うが、自分たちに出来ることを出来る限りやろうと思う」6月に協会を訪問した三重県津市立白山中学校から寄せられた感想だ。難民問題を通して人道支援や平和について考えたいという教育機関からのご要望にお応えして、日本UNHCR協会では小・中・高校生の訪問を受け入れている。今年度は8月までに24校が来訪した。レクチャー

を担当するボランティア講師は「生徒さん達は、素直に話を吸収し、何気なく話したことも真剣に受け止め、難民問題の重要性を感じてくれる」と、入念な準備をして臨んでいる。

募金活動

学習訪問後も「自分たちにできることはなにか?」を考え、支援活動をしている学校もある。白山中学校では9月の学校祭で、難民問題について学んだ事の発表、難民写真パネルの展示と合わせ、募金を集めた。「当初、『難民?』『UNHCR?』と感じていた生



難民写真展を見学する白山中学の生徒さん
©三重県津市立白山中学校

徒たちが、事前学習や訪問を通じて、積極的に学ぶ姿が変わっていくのが感じられた」という先生の報告と、「『難民の方々を助けた』という思いよりも『自分たちがボランティアの一員になった』という満足感が残った」という生徒さんの嬉しいコメントと共に、ご寄附をいただいた。

関連情報:

<http://www.japanforunhcr.org/school/index.html>

あとがきにかえて

アインシュタインの パスポート



この証明書を得るまで
5年間無国籍者だったアインシュタイン
MUSEE HISTORIQUE DE BERNE

アルバート・アインシュタイン (1879-1955)
物理学者、ドイツ生まれ

1896年に国籍を放棄し、その後5年間無国籍者となる。1901年スイス市民となり、1914年には再びドイツ市民権を得て1921年ノーベル物理学賞を受賞。1933年にヒトラーが首相となると難民となり、英雄的な歓迎を受けたアメリカ合衆国へ逃れ、1940年アメリカ市民となった。

あなたにもできる
普段着の難民支援を
私たちと一緒に
探しに行きませんか?